



やぐもだい

令和5年6月30日
調布市立八雲台小学校
校長 上田 義孝
<http://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>



「挨拶」

校長 上田 義孝

毎朝、子どもたちを正門や南門で警備員の方と「おはようございます」「おはよう」と挨拶をし、迎えています。子どもたちも「おはようございます」と挨拶をしてくれます。中には、その場に立ち止まり、おじぎをして挨拶してくれる子もいます。挨拶をせずにすっと通り過ぎてしまう子は、家を出るまでに何かあったかな。何か不安なのかな。と心配になったりもします。一日の始まりは気持ちよく、そして明るく、すてきな挨拶から始め、学校が楽しく学べる場所でありたいと願い、私は挨拶をしています。

さて、挨拶という言葉はどこから来たのでしょうか。漢字で書くと「挨拶」で、「挨」には「押す・近づく」という意味が、「拶」には「迫る・近づく」という意味があります。もともとは禅宗の師と弟子が行う問答のことを「一挨一拶」といったそうです。問答はお互いに心を開いて接するところから、次第に人と会ったり別れたりする際に交わす言葉や動作を表すようになったようです。

例えば「おはよう」には「お早いおでかけですね」とか「お早くからお働きですね」などのように、何かをするために、早く起きたことを褒めるいみがありました。この「お早く」が転じて「おはよう」という朝の挨拶になったそうです。調べてみると、言葉にも色々な歴史があることが分かりました。

では、挨拶はなぜ大切なのでしょう。それは、挨拶をすることでいくつかの良いことが生まれるからと考えます。

まず、相手に良い印象をもたれ人間関係がよくなること。

挨拶をすることは自らの心を開き、相手を認めることです。人は誰しも認められたいという気持ちを持っています。相手のことを認めるということは、相手も嫌な気持ちはせず、嬉しい気持ちになります。挨拶をすると、自分だけでなくみんなの幸せを呼んでくるのです。

次に、相手との「会話のきっかけ」になること。

話すことが苦手な人は、挨拶をきっかけに相手と話すチャンスがうまれるかもしれません。挨拶は相手とのコミュニケーションや会話のきっかけになってくれます。「おはよう！！」「おはよう！」「今日一緒に遊ぼうよ。」「うん。一緒に外にいてくれる？・・・」などと、つながっていくこともあります。

それから、自分や相手の緊張をほぐすこともできること。

何をお話ししようかな。知り合いや友達になるには考えすぎると緊張してしまうことがあります。その点、挨拶は決まった言葉があるので、簡単で分かりやすいです。決まった言葉を声に出すことで自分の緊張がほぐせるという良いことがあります。相手も「あいさつしてくれた」という思いから、緊張がほぐれ、挨拶をした人も、挨拶された人も気持ちがよくなります。

勉強で学ぶことも大切ですが、いろいろな人間関係のなかで、挨拶やコミュニケーションをする能力は、心を通わせるため、そして子供たちの未来のためにとっても大切なものと考えます。

時代はどんどんデジタル化しており、様々なところでアナウンスなどは決まったメッセージが流れます。しかし、挨拶は心通う、あたたかく美しい言葉。ぜひ人と人との心通う「挨拶」。学校、家庭、地域で大きく大きく広がってほしいといつも願っています。